

ミノムシ

ひょうじゅん
標準 ②

ミノムシ

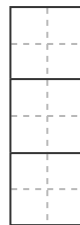
冬、葉の落ちた木のえだに、小さなふくろのようなものがぶら下がっていることがあります。これがミノムシです。

ミノムシは、ミノガというガの幼虫ようちゅうです。口から細い糸を出して、かれ葉や小えだをつなぎ合わせ、「みの」を作ります。そして、その中にかくれてくらしています。

みののは、寒さや雨、てきから体を守ってくれます。ミノムシは、秋の終わりに、みのを糸でえだにしっかりとくっつけて、その中で冬をこします。

春に、みのの中でさなぎになり、やがて成虫せいちゅうになります。オスは羽のあるガになって飛び立ちますが、メスには羽がなく、みの中にとどまったまま、たまごをうみます。

1 ミノムシは、何というガの幼虫ようちゅうですか。



2 ミノムシは、みのを何で作りますか。

ア 土とどろ

イ かれ葉や小えだ

ウ ほかの虫の羽

3 みののは、ミノムシにとってどんな役に立っていますか。

4 メスの成虫せいちゅうは、どうしますか。

ア 羽を広げて飛び立つ。

イ みのの中にとどまって、たまごをうむ。

ウ 土の中にもぐる。